

## I 調査の実施状況

### (1) 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### (2) 調査実施日

令和3年5月27日（木）

### (3) 受検者数・受検校数・実施教科等

	県受検者数 (受検校数)	全国受検者数 (受検校数)	実施教科等
小学校第6学年	15,574人 (379校)	994,101人 (18,857校)	国語 算数 質問紙
中学校第3学年	14,799人 (156校)	903,253人 (9,320校)	国語 数学 質問紙

※ 数値は、調査日に実施した公立学校数及び公立学校児童生徒数

## 2 学力調査の結果

- H31年度から、A・B問題の区別をなくし、知識と活用を一体的に問う問題に変更されたため、過去の調査結果は、H31年度のみを表している。（R2年度は、調査を実施していない。）

### 【小学校 平均正答率〔%〕】

年度		国語	算数	国算計	
		正答率	正答率	正答率	差※
R3	岡山県	66	69	135	±0
	全国	64.7	70.2	134.9	

※「国算（数）計」の差は、全国の国語及び算数（数学）の平均正答率の合計の小数第1位を四捨五入し、県の合計との差を算出したもの

（参考）H31年度の結果

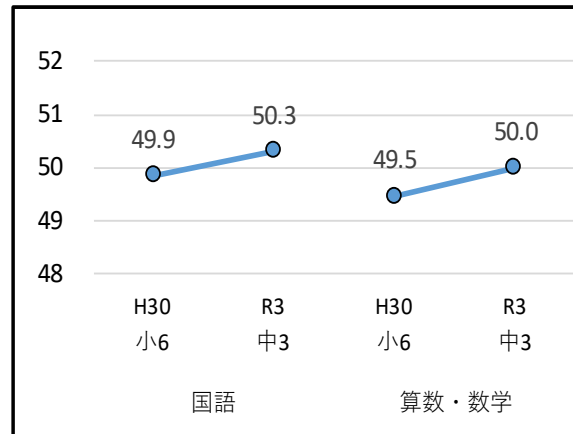
年度		国語	算数	国算計	
		正答率	正答率	正答率	差※
H31	岡山県	64	65	129	-1
	全国	63.8	66.6	130.4	

### 同一集団における標準スコアの推移

- ・ 標準スコアとは、全国の平均正答率を50としたときの換算値
- ・ H30年度の標準スコアは、A・B問題それぞれの標準スコアの平均値

### 【中学校 平均正答率〔%〕】

年度		国語	数学	国数計	
		正答率	正答率	正答率	差※
R3	岡山県	65	57	122	±0
	全国	64.6	57.2	121.8	



（参考）H31年度の結果

年度		国語	数学	国数計	
		正答率	正答率	正答率	差※
H31	岡山県	73	60	133	±0
	全国	72.8	59.8	132.6	

- 小学校の国語は全国平均を上回り、算数は全国平均を下回った。
- 中学校の国語・数学ともに全国平均と同程度であった。
- 同一集団における標準スコアの推移は、国語、算数・数学ともに上昇している。

### 3 学習状況（児童生徒質問紙）調査の結果

※各質問項目は、質問紙調査の質問文をそのまま使用している。

#### 【授業改善】

※クロス分析で用いる学力の数値は、各児童生徒の国語と算数・数学の標準スコアの平均値を用いている。

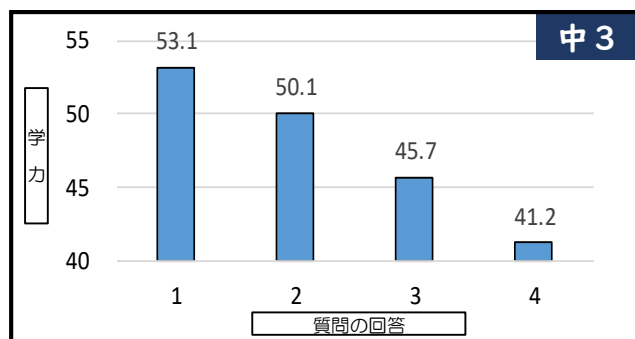
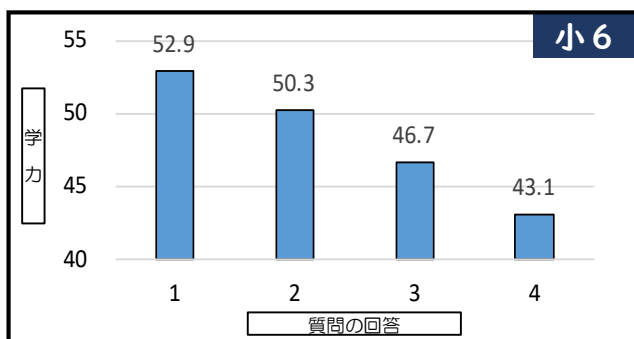
① 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。（主体的な学び）

[ 1：当てはまる 2：どちらかといえば、当てはまる 3：どちらかといえば、当てはまらない 4：当てはまらない ]

《年度ごとの肯定的回答割合〔単位：％〕》

	小6	中3
H31	78.0	74.0
R3	76.8 ↓	80.8 ↑

《質問の回答と学力のクロス分析》



② 学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか。（対話的で深い学び）

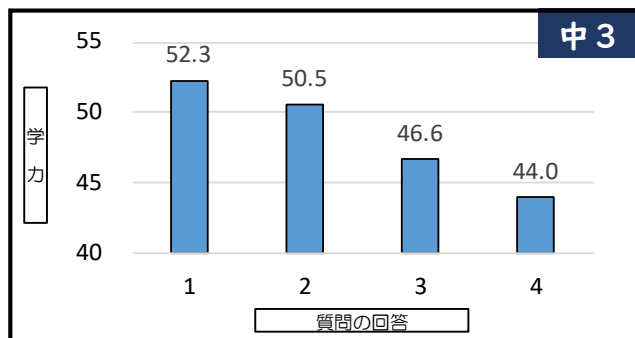
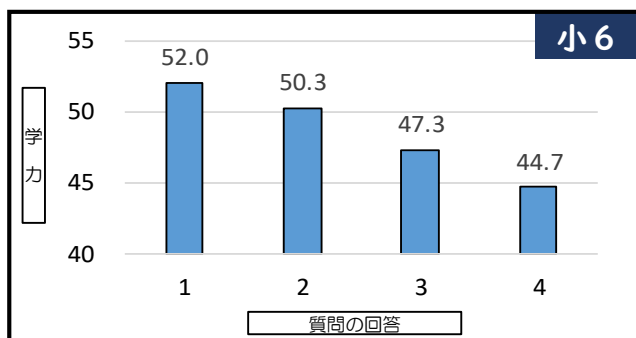
[ 1：当てはまる 2：どちらかといえば、当てはまる 3：どちらかといえば、当てはまらない 4：当てはまらない 5：学級の児童生徒との間で話し合う活動を行っていない ]

《年度ごとの肯定的回答割合〔単位：％〕》

	小6	中3
H31	74.8	73.3
R3	78.2 ↑	78.4 ↑

《質問の回答と学力のクロス分析》

※「5:学級の児童生徒との間で話し合う活動を行っていない」と回答した児童生徒を除いて分析している。



- 「主体的な学び」に関する項目では、年度ごとの肯定的回答の割合が、中学校で増加している。この質問に肯定的に回答した児童生徒ほど、国語、算数・数学の平均標準スコアが高い傾向が見られた。
- 「対話的で深い学び」に関する項目では、年度ごとの肯定的回答の割合が、小・中学校ともに増加している。この質問に肯定的に回答した児童生徒ほど、国語、算数・数学の平均標準スコアが高い傾向が見られた。

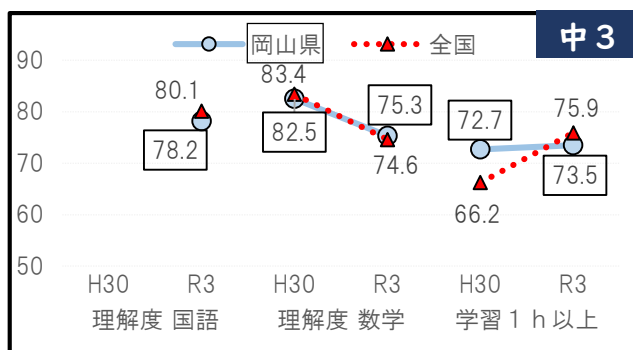
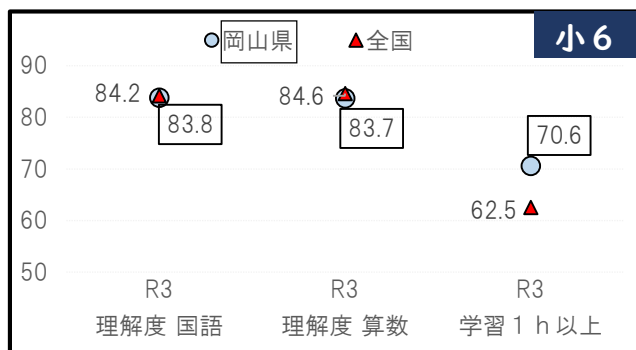
【授業理解・学習習慣】

- ③ 国語の授業の内容はよく分かる。(理解度 国語)
- ④ 算数・数学の授業の内容はよく分かる。(理解度 算数・数学)
- ⑤ 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習1h以上)

《年度ごとの肯定的回答割合〔単位：％〕》 ※H30年度の質問紙に、「理解度 国語」の質問はない。

年度	小6			中3		
	理解度 国語	理解度 算数	学習1h以上	理解度 国語	理解度 数学	学習1h以上
H30	—	82.5	72.7	—	67.6	60.4
H31	83.7	82.0	72.1	75.7	72.0	64.6
R3	83.8 ↑	83.7 ↑	70.6 ↓	78.2 ↑	75.3 ↑	73.5 ↑

《同一集団における肯定的回答割合の推移〔単位：％〕》



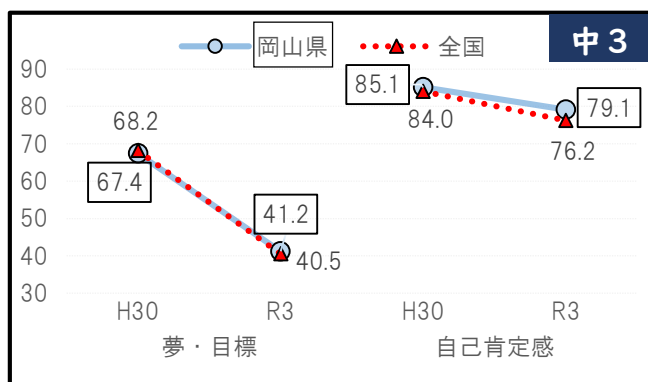
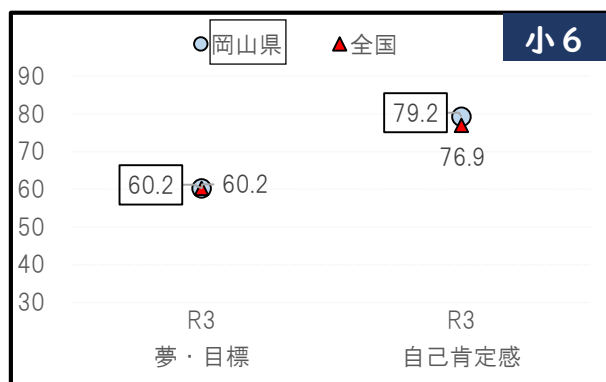
【夢育・自己肯定感】

- ⑥ 将来の夢や目標を持っている。(夢・目標)
- ⑦ 自分にはよいところがあると思う。(自己肯定感)

《年度ごとの肯定的回答割合〔単位：％〕》 ※「夢・目標」の質問は、「1：当てはまる」と回答した児童生徒の割合です。

年度	小6		中3	
	夢・目標 ※	自己肯定感	夢・目標 ※	自己肯定感
H30	67.4	85.1	45.0	81.4
H31	65.9	82.5	44.1	75.5
R3	60.2 ↓	79.2 ↓	41.2 ↓	79.1 ↑

《同一集団における肯定的回答割合の推移〔単位：％〕》



- 「授業理解」に関する項目では、年度ごとの肯定的回答の割合が、小・中学校ともに増加している。「学習1h以上」に関する項目では、年度ごとの肯定的回答の割合が、小学校で減少し、中学校で増加している。また、同一集団における家庭学習1h以上の割合の推移は、上昇している。
- 「夢・目標」に関する項目では、年度ごとの肯定的回答の割合が、小・中学校ともに減少している。「自己肯定感」に関する項目では、小・中学校ともに全国平均を上回っている。

# 【新型コロナウイルス感染症による臨時休業の影響】

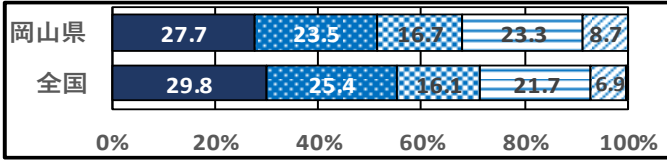
- ⑧ 勉強について不安を感じた。(不安感)
- ⑨ 計画的に勉強を続けることができた。(学習習慣)
- ⑩ 規則正しい生活を送っていた。(生活習慣)

- 1:当てはまる
- 2:どちらかといえば、当てはまる
- 3:どちらかといえば、当てはまらない
- 4:当てはまらない
- 5:思い出せない
- 無回答

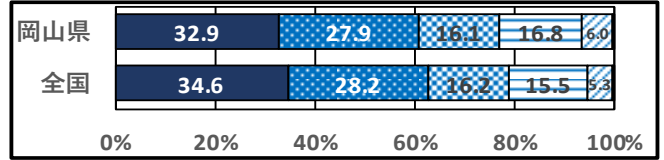
## 《回答番号ごとの割合》

### ⑧ 不安感

小6

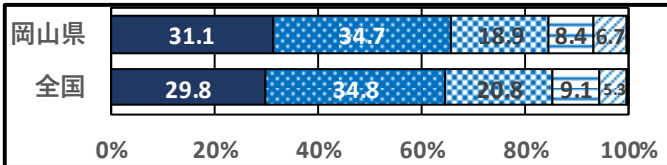


中3

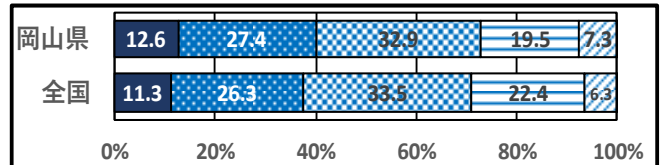


### ⑨ 学習習慣

小6

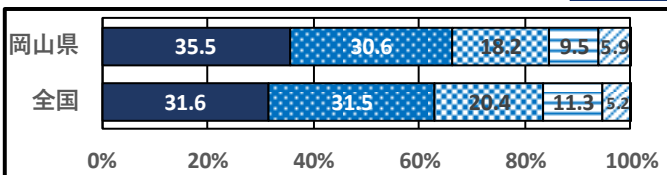


中3

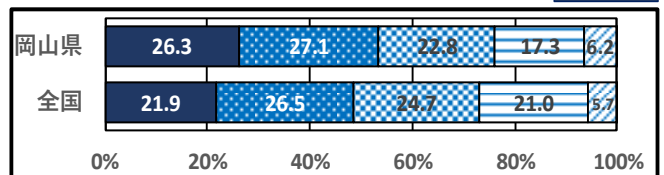


### ⑩ 生活習慣

小6



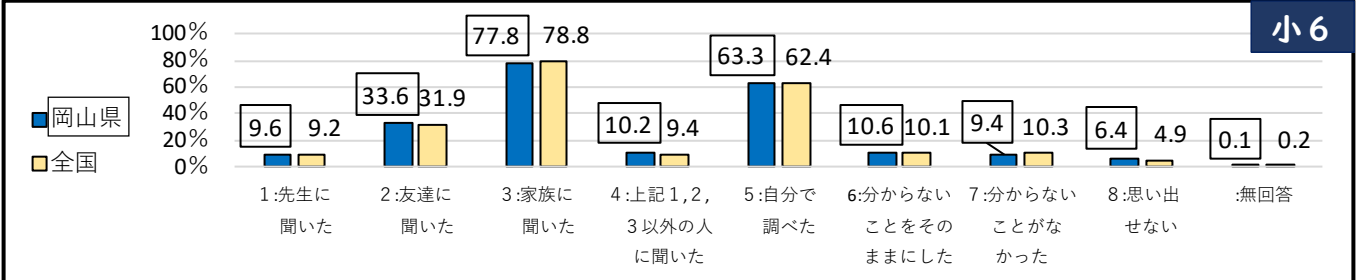
中3



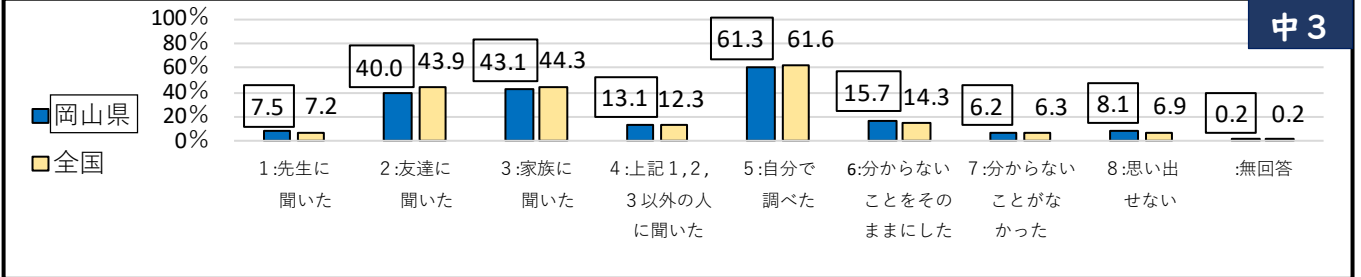
- ⑪ 新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、学校からの課題で分からないことがあったとき、どのようにしていましたか。(複数回答可)

## 《回答番号ごとの割合》

小6



中3



- 「不安を感じた」と回答した割合は、小・中学校ともに全国より少ない。
- 「計画的に学習できた」、「規則正しい生活を送った」と肯定的に回答した割合は、小・中学校ともに全国より多い。
- 「課題で分からないことがあったとき、どのようにしていたか」との質問について、小学校は「家族に聞いた」との回答が最も多く、中学校は「自分で調べた」との回答が最も多い。

## 4 設問から見える成果と課題

### ■ 小学校国語

#### 【全国平均を上回っている設問】

設問番号	設問の概要	正答率 (%)		
		県	全国	差
3二	丸山さんの【文章の下書き】の.....部を【西田さんの話】を用いて詳しく書き直す	60.7	56.6	4.1
3三 (2)イ	丸山さんの【文章の下書き】の中の__部イで、~~~~部「残されています」の主語として適切なものを選択する	71.2	67.0	4.2

#### 【全国平均を下回っている設問】

設問番号	設問の概要	正答率 (%)		
		県	全国	差
2一	面ファスナーに関する【資料】の文章が、何について、どのように書かれているかの説明として適切なものを選択する	76.9	77.6	-0.7
2三	面ファスナーに関する【資料】を読み、メストラルは、何をヒントに、どのような仕組みの面ファスナーを作り出したのかをまとめて書く	33.9	34.4	-0.5

- ・目的や意図に応じて、理由を明確にしなが、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する設問において、正答率が全国平均を上回った。一方、同じ記述式の設問のうち、目的に応じ文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付ける設問では、全国平均を下回った。
- ・文の中における主語と述語の関係を捉えることができるかをみる設問で、正答率が全国平均を上回った。
- ・文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握することができるかをみる設問で、正答率が全国平均を下回った。

### ■ 小学校算数

#### 【全国平均を上回っている設問】

設問番号	設問の概要	正答率 (%)		
		県	全国	差
1 (1)	二つのコースの道のりの差の求め方と答えを書く	63.8	62.5	1.3
4 (3)	30mを1としたときに12mが0.4に当たるわけを書く	53.1	51.5	1.6

#### 【全国平均を下回っている設問】

設問番号	設問の概要	正答率 (%)		
		県	全国	差
1 (3)	㊦と㊧の二つの速さを求める式の意味について、正しいものを選ぶ	53.7	55.8	-2.1
2 (1)	直角三角形の面積を求める式と答えを書く	53.0	55.1	-2.1

- ・問題場面から、必要な数値を選び、その求め方と答えを記述する設問や、小数を用いた倍についての説明を解釈し、ほかの数値の場合に適用する数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目して、その理由を記述する設問は、正答率が全国平均を上回った。
- ・速さを求める除法の式と商の意味を理解しているかをみる設問や、三角形の面積の求め方を理解しているかをみる設問で、正答率が全国平均を下回った。6年生から5年生に移行した速さ等、変化と関係の領域は、経年的な課題であり、単位量当たりの大きさの意味や表し方について理解し、単位量当たりの大きさを用いて比べることができるようにする必要がある。

## ■中学校国語

### 【全国平均を上回っている設問】

設問番号	設問の概要	正答率 (%)		
		県	全国	差
4二	「随時」の意味として適切なものを選択する	74.6	74.0	0.6
4三	「行く」を適切な敬語に書き直し、その敬語の種類として適切なものを選択する	42.8	40.3	2.5

### 【全国平均を下回っている設問】

設問番号	設問の概要	正答率 (%)		
		県	全国	差
1三	参加者の誰がどのようなことについて発言するとよいかと、そのように考えた理由を書く	54.6	57.1	-2.5
4四	事前に確かめておきたいことについて相手に失礼のないように書く	70.7	71.9	-1.2

- ・事象や行為などを表す多様な語句について理解しているかをみる設問や、H30年度調査の小学校で課題があり、再度出題された、相手や場に応じて敬語を適切に使えるかをみる設問で、正答率が全国平均を上回った。
- ・話し合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考える設問や、伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く設問で、正答率が全国平均を下回った。

## ■中学校数学

### 【全国平均を上回っている設問】

設問番号	設問の概要	正答率 (%)		
		県	全国	差
5	反復横とびの記録の中央値を求める	85.9	84.5	1.4
1	$(5x + 6y) - (3x - 2y)$ を計算する	78.4	77.1	1.3

### 【全国平均を下回っている設問】

設問番号	設問の概要	正答率 (%)		
		県	全国	差
4	経過した時間と影の長さの関係を、「…は…の関数である」という形で表現する	46.3	48.0	-1.7
6 (1)	四角で囲んだ四つの数が12,13,17,18のとき、それらの和が4の倍数になるかどうかを確かめる式を書く	82.0	83.9	-1.9

- ・与えられたデータから中央値を求める設問や、整式の加法と減法の計算ができるかをみる設問で、正答率が全国平均を上回った。
- ・関数の意味を理解しているかをみる設問で、正答率が全国平均を下回った。
- ・目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして事柄が成り立つ理由を説明する設問で、正答率が全国平均を下回った。事象を数学的に考察する場面で、その事象の特徴を数学的な表現を用いて説明することに課題があるため、文字を用いて表した計算結果を事象と関連付けて読み取る活動を充実する必要がある。



## 【参考】全国調査 市町村別の状況

### ※ 学力調査の結果 平均正答率（教科別）

名称		小学校 6 年生		中学校 3 年生	
		国語	算数	国語	数学
全国（公立）		65	70	65	57
岡山県（公立）		66	69	65	57
1	岡山市教育委員会	65	70	65	57
2	倉敷市教育委員会	68	69	63	55
3	津山市教育委員会	64	68	61	53
4	玉野市教育委員会	62	64	65	58
5	笠岡市教育委員会	65	68	65	56
6	井原市教育委員会	65	67	63	58
7	総社市教育委員会	66	70	65	57
8	高梁市教育委員会	65	68	63	56
9	新見市教育委員会	66	67	65	56
10	備前市教育委員会	63	69	63	55
11	瀬戸内市教育委員会	65	70	66	60
12	赤磐市教育委員会	64	69	65	59
13	真庭市教育委員会	65	68	62	52
14	美作市教育委員会	67	69	63	51
15	浅口市教育委員会	67	71	64	55
16	和気町教育委員会	63	63	65	57
17	早島町教育委員会				
18	里庄町教育委員会	67	70		
19	矢掛町教育委員会	64	71		
20	新庄村教育委員会				
21	鏡野町教育委員会	65	67		
22	勝央町教育委員会	65	71		
23	奈義町教育委員会				
24	西粟倉村教育委員会				
25	久米南町教育委員会	66	70		
26	美咲町教育委員会	70	73	63	55
27	吉備中央町教育委員会	69	76		
28	笠岡市・矢掛町中学校組合				
29	県立学校			88	84

※斜線の町村は、該当の学校が1校のため、公表の対象としない。

※県立特別支援学校（小学部）は、受検者が少数であるため、公表の対象としない。

※県立学校には、県立特別支援学校（中学部）、県立中学校・中等教育学校が含まれる。

# 今後の取組

## 県教委の取組

### 【管理職のビジョンと戦略を支援する学校訪問】

- ・県内（岡山市を除く）の全ての公立小・中学校を訪問し、校長作成の「学校経営アクションプラン」を基に、学力向上をはじめとする学校が抱える課題の解決や特色ある学校づくりに向けた取組について面談・協議を行い、管理職のビジョンと戦略を支援する。
- ・年に複数回、学校を訪問し、授業参観を通じて、今後の授業改善の方向性について指導・助言を行い、学校の取組を支援する。

### 【授業改善の推進】

- ・「学力向上担当者通信」、「県外レポート通信」を発行し、学び力の育成に向けて、学校で取り組むべきポイントや他県等の取組の良いところを紹介する。
- ・県内に配置している授業改革推進リーダー・推進員を中心に、校内指導体制の充実と授業改善に向けた対話のある学校風土を醸成するとともに、市町村教育委員会と連携した指導の充実を図る。
- ・「家庭学習のスタンダード」、「家庭学習のスタンダード増補版」に基づいた、授業と家庭学習をつなぐサイクル（C）とフィードバック（F）の取組の実践を推進する。

### 【個に応じた指導の充実】

- ・「学力定着状況確認テスト」、「中間期学習状況調査」を実施することで、各学校における児童生徒のつまずきや学習状況を年度途中で把握できるようにする。
- ・「ふりかえりプリント集」や、個のつまずきにに応じたプリントを作成できる「Web 評価支援システム」を学校に提供し、積極的な活用を促す。
- ・放課後学習サポート事業により支援員を配置することで、各学校が放課後等に実施する補足的な学習指導を支援する。

### 【学ぶ意欲の向上】

- ・各教科等での学習が、児童生徒の学ぶ目的意識につながり、意欲的に学習に取り組んでいけるよう、課題解決型の学習（PBL）を導入して自己肯定感を高める取組を支援するなど、学びの原動力となる「夢育」を推進する。

## 各学校の取組

各校において、次のような学力向上に向けた取組を、市町村教育委員会と連携しながら進めていく。

### 【授業改善の推進】

- ・「岡山型学習指導のスタンダード」に基づいた授業5の視点に加え、「岡山型学習指導のスタンダード増補版 授業改善、『一步先へ!』（以下、「増補版」という）」に示している、児童生徒が主役となる授業づくりと全体を見通した単元計画を行う視点を重点として、授業改善を進める。
- ・学力向上担当者を中心として、担任や教科担当が分析した当該学年や教科における調査結果を基に、全教員で学校全体の状況を把握し、学校組織全体で、つまずき解消に向けた取組を推進する。
- ・「増補版」の視点で作成した授業観察シートを効果的に活用するとともに、一人一台端末を活用した個別最適化された学びと協働的な学びの場を研究・実践し、更なる授業改善を進める。
- ・「家庭学習のスタンダード」、「家庭学習のスタンダード増補版」を活用し、授業と家庭学習を関連付けながら、短いサイクルで定着を図るサイクル（C）とフィードバック（F）の取組を実践する。

### 【個に応じた指導の充実】

- ・「学力定着状況確認テスト」や小テスト等により児童生徒のつまずきを把握し、個に応じたプリントを用いたり、一人一台端末を活用したりしてつまずきの解消を図る。
- ・放課後等を利用した補足的な学習指導を行い、児童生徒一人一人の学力の定着を図る。

### 【学ぶ意欲の向上】

- ・児童生徒が課題を発見し、他者と協働しながら課題解決を図るような探究的な学習（PBL）を研究・実践するとともに、「やりたいこと」や「なりたい自分」を見つけられる機会や場を設定することにより、子どもたちの自己肯定感を高め、主体的に学び力を育成する。